

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題4）

-子どもの心の安らかな発達の促進と育児不安の軽減-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
51. (社)母子用品指導協会	46.49.	<p>46.ママと赤ちゃんのために「なにが必要？どう選ぶ」一部改訂版を作成し各市町村の保健センター等から120万部を配布。(B6判 横長 本文16ページ)</p> <p>46.赤ちゃん用品お役立ちBOOK「プレママ・パパメモリー」を作成し各市町村の保健センター等から80万部を配布(B6判 横長 本文16ページ)</p> <p>46.「やさしい水と乳幼児の食生活」を作成し各市町村の保健センター等から配布(B6判 横長 本文16ページ)</p> <p>49.グループホームページ「子育てインフォ」内に母子用品情報ページ「e-もの」を継続して掲載。同「子育てインフォ」内に、「子育てインターネット相談室」を開設し、ネット上での相談受付や情報の配信を行う。</p>	<p>46.ママと赤ちゃんのために「なにが必要？どう選ぶ」一部改訂版を作成し各市町村の保健センター等から120万部を配布。(B6判 横長 本文16ページ)</p> <p>46.赤ちゃん用品お役立ちBOOK「プレママ・パパメモリー」を作成し各市町村の保健センター等から80万部を配布(B6判 横長 本文16ページ)</p> <p>46.「やさしい水と乳幼児の食生活」を作成し各市町村の保健センター等から配布(B6判 横長 本文16ページ)</p> <p>49.グループホームページ「子育てインフォ」内に母子用品情報ページ「e-もの」を継続して掲載。同「子育てインフォ」内に、「子育てインターネット相談室」を開設し、ネット上での相談受付や情報の配信を行う。</p>
52. 日本小児歯科学会	45.49.52.54.55.62.	<p>45 虐待の早期発見・対応</p> <p>* 学会ホームページに歯科とのかかわりについて掲載</p> <p>49 育児について相談できる環境の整備</p> <p>* 「子ども健康週間」事業に参加</p> <p>東京都においては、健康相談を行なった</p> <p>52 母乳育児の推進</p> <p>* チャイルドヘルス懇談会を開催し、日本小児科学会、日本小児科医会、日本小児保健協会と「母乳とむし歯」-現在の考え方-を意見統一した</p> <p>54 受診者が満足いく乳幼児の健康診査の実施の推進</p> <p>55 育児支援に重点をおいた乳幼児健康診査の実施の推進</p> <p>* 学会の統一見解として、「最新乳幼児口腔保健の手引き（仮題）」を発刊するべく、編集協議中</p> <p>62 歯の健康の推進</p> <p>* 生涯研修セミナーを開催</p> <p>テーマ：摂食、嚥下</p> <p>参加人数：714名</p> <p>開催数：2回 東京都、大阪府で実施</p>	<p>45 虐待の早期発見・対応</p> <p>* 地域保健委員会において、学会ホームページに掲載されている内容の活用について検討</p> <p>49 育児について相談できる環境の整備</p> <p>* 平成16年度「子ども健康週間」事業に参加</p> <p>54 受診者が満足いく乳幼児の健康診査の実施の推進</p> <p>55 育児支援に重点をおいた乳幼児健康診査の実施の推進</p> <p>* 学会の統一見解としての「最新乳幼児口腔保健の手引き（仮題）」を発刊予定</p>

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題4）

-子どもの心の安らかな発達の促進と育児不安の軽減-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
58. 全国病児保育協議会	46.48.49.50.51.	<p>研修会を開催 講演「病（後）児保育—親子の健康支援を目指して—」 講師 ほあし子どものこころクリニック 院長 帆足 英一 先生 講演「これからの保育を求めて—Hugは百薬の長なり—」 講師 聖マリア病院副院長・母子総合医療センター長 橋本 武夫 先生 講演「にこにこトマトって何だろう」 講師 京都大学医学部附属小児科ボランティアグループ「にこにこトマト」 事務局代表・コーディネーター 神田 美子 氏 全国病児保育協議会で行っている調査の報告 ○「病（後）児保育室自己評価基準全国調査報告」 調査研究委員長 平田 ルリ子 先生 ○「全国病児保育室実態調査中間報告」 副会長・調査研究副委員長 宮田 章子 先生 その他 HPの掲示板での相談</p>	<p>研修会を開催(平成16年7月18日・19日 於:横浜) 基調講演 「題未定」 講師 ほあし子どものこころクリニック 院長 帆足 英一 先生 特別講演 「子どもと感染症」 講師 横浜市立大学大学院医学研究科 発生成育小児医療学 教授 横田 俊平 先生 その他 地域子育て支援センター、派遣型乳幼児健康支援一時預り事業、ファミリーサポートセンター、保育サポーター、ベビーシッター等の他の育児支援グループとの連携</p>

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題4）
-子どもの心の安らかな発達の促進と育児不安の軽減-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
63. 日本母乳哺育学会	52. 母乳哺育の推進	<p>1. 2003年度は第18回日本母乳哺育学会学術集会・総会を2003年9月19日20日の両日に昭和女子大学構内のオーロラホールを主会場として開催した。本学会は母乳哺育という視点から臨床医学、基礎医学、看護学、栄養学、心理学、社会学、など複合的な領域からの会員が一堂に会する極めて斬新なそしてユニークな学術団体である。そして、例年の学術集会で取り上げられるテーマも実に多岐にわたっている。2003年度についても、学術集会では主テーマを「母乳に学ぶ」母性と栄養の協調から、として種々の企画を実施した。</p> <p>2. 学術集会前日の19日午後には公開講演会を企画しました。「離乳と母乳栄養」について宮城県立こども病院副院長の堺武男先生と聖マリアンナ病院教授堀内勤先生に話題提供をいただき会場におられる皆様と共にこの話題について考えてみたいと思います</p> <p>3. 20日は特別講演は栄養学的な母乳研究を進められ、国際的にも活躍されている韓国の金乙祥檀國大学教授に「母乳と栄養韓国女性の研究から」のご講演いただきました。教育講演では理化学研究所主任研究員の辨野義巳先生に栄養消化に深く関わる腸内細菌に関して「分子生物学的手法を用いた乳児の腸内細菌叢の多様性解析」についてご講演をいただいた。何れも母乳栄養の今後を考える上で重要な内容であり示唆に富んだ内容であった。</p>	<p>2004年度は第19回日本母乳哺育学会に合わせて次のように計画する。</p> <p>1. 第19回の学会は、学会のメインテーマを「母乳哺育は時空を超えて」として9月25日(土)、26日(日)に開催します。場所は長崎県でハウステンボスとアルカスSASEBOに於いて行う。</p> <p>2. 初日の25日(土)は学会員のみならず広く学会員以外の人たち(一般の母親や母乳栄養促進に関心を持つ人)にも聴いていただくように一般公開講演会を開催する。テーマは子どもの育ちと育児についての基本講演を小林登先生(東京大学名誉教授)にお願いし、長崎と古くから交流のあったオランダの子育てと母乳哺育の現状を、Abraham Felijs(小児科医師)、Siemian Berghuijs(国際認定ラクテーション・コンサルタント)をオランダからお招きし、Hiemstra Clement(英語教師 佐世保市在住)をまじえてミニシンポジウムを開催する。この企画には、子育て中のお母さんに一人でも多く参加していただきたくて託児室を設けます。働くお母さんが増えていますので学会参加者に保育士をはじめ保育園関係者にも呼びかけをします。</p>
63. 日本母乳哺育学会		<p>4. 健やか親子21との関わりが特に大きい企画として、パネルディスカッション「母乳哺育をめぐる支援とは？」について行った。この企画では新生児科医師、歯科医師、助産師、管理栄養士、保健士、それぞれに母乳栄養の実践に深く関わりながら立場が異なる方々からの話題提供と意見交流を通して主題へのアプローチを試みた。</p> <p>5. さらに、科学的な話題として、シンポジウム「母乳の栄養学とその進歩」や一般演題20題余の一般口演もあり盛況の内に閉会した。</p>	<p>3. 2日目の26日(日)は会場をハウステンボスに移して教育講演「生物人類学からみた哺育」香原 志勢先生(立教大学名誉教授)、特別講演「乳房の橋渡し機能について」北山 修先生(九州大学大学院人間環境学研究院・医学研究院教授)、シンポジウム「ATLとその後の母乳哺育」、ポスター形式による一般演題発表などを計画している。この学術集会では母乳栄養の利点と問題点、あるいは疑問点について科学的根拠に基づいた議論を深め、母乳栄養推進に必要なエビデンスの蓄積に貢献することを目的とする。</p>

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題4）

-子どもの心の安らかな発達の促進と育児不安の軽減-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
64. (社団)日本女医会	46.49.	<p>子育てに自信がもてるような支援の推進 育児について相談できる環境の整備 * 「十代の性と健康」指導者養成講座を五回開催（第四回から第八回） 目的：十代の妊娠中絶率の増加に伴い、増加している性感染症の恐ろしさを教え、正しい科学的知識・予防法等を徹底する。新しい手法の紹介し、地域におけるネットワーク作りにも大いに貢献した。 参加人数（対象者）： 第四回 132名（医師、教諭、養護教諭、保健師、助産師、看護師、学生、その他） 第五回 112名（医師、教諭、養護教諭、保健師、助産師、看護師、学生、その他） 第六回 198名（医師、教諭、養護教諭、保健師、助産師、看護師、学生、その他） 第七回 122名（医師、教諭、養護教諭、保健師、助産師、看護師、学生、その他） 第八回 226名（医師、教諭、養護教諭、保健師、助産師、看護師、学生、その他） 開催数 5回 方法等 「性と健康を考える女性専門家の会」の協力得て、さらに各県、各県医師会、各県教育委員会等の後援を得、専門性の高い講師を選定し、講演内容も受講者より極めて好評であった。 * 身近なところで気軽に相談指導を受けることができる体制作り並びに女性医師の研究強化</p>	<p>子育てに自信がもてるような支援の推進 育児について相談できる環境の整備 * 「十代の性と健康」指導者養成講座を東京近郊2ヶ所で開催する。 そのための資料集、教材の開発し、子どもを取り巻く誰もが科学的な性的健康教育を自然体で教える雰囲気作りを目指す。 * 地域のネットワーク作り * 身近なところで気軽に相談指導を受けることができる体制作り並びに女性医師の研究強化</p>

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題4）
 -子どもの心の安らかな発達の促進と育児不安の軽減-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
68. 日本臨床心理士会	15.45.46.49.55.	<p>45 虐待の発生予防、早期発見・対応、児童の保護・支援の推進 平成15年11月30日 日本臨床心理士会第4回子育て支援研修会 第2分科会【テーマ】福祉施設での被虐待児への支援について 【参加人数】229人（臨床心理士） 【開催方法】午前の全体会に引き続き、4領域からのシンポジストにより3時間に及ぶ研修を行った。 【場所】 東京都、大正大学 【効果】 全国各地で臨床に携わっている臨床心理士の情報交換や子育て支援に関する新しいアプローチの方法を学んだ。</p> <p>46 育児支援に重点をおいた乳幼児健康診査の実施の推進 平成15年11月30日 日本臨床心理士会第4回子育て支援研修会 第1分科会【テーマ】保健医療領域での子育て支援 【参加人数】207人（臨床心理士） 【開催方法】午前の全体会に引き続き、4領域からのシンポジストにより3時間に及ぶ研修を行った 【場所】 東京都、大正大学 【効果】 全国各地で臨床に携わっている臨床心理士の情報交換や子育て支援に関する新しいアプローチの方法を学んだ。</p> <p>49 育児について相談できる環境の整備 平成15年11月30日 日本臨床心理士会第4回子育て支援研修会 第4分科会【テーマ】幼稚園・保育園での子育て支援について</p>	

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題4）

-子どもの心の安らかな発達の促進と育児不安の軽減-

団体名	課題に対する団体としての15年度取り組み	15年度取り組み実績	16年度取り組み行動計画
68. 日本臨床心理士会		<p>【参加人数】129人（臨床心理士） 【開催方法】午前の全体会に引き続き、4領域からのシンポジストにより3時間に及ぶ研修を行った。 【場所】東京都、大正大学 【効果】全国各地で臨床に携わっている臨床心理士の情報交換や子育て支援に関する新しいアプローチの方法を学んだ。 55 子育てに自信が持てるような支援の推進 平成15年11月30日 日本臨床心理士会第4回子育て支援研修会 第3分科会【テーマ】地域での親支援について 【参加人数】184人（臨床心理士） 【開催方法】午前の全体会に引き続き、4領域からのシンポジストにより3時間に及ぶ研修を行った。 【場所】東京都、大正大学 【効果】全国各地で臨床に携わっている臨床心理士の情報交換や子育て支援に関する新しいアプローチの方法を学んだ。 45 虐待の発生予防、早期発見・対応、児の保護・支援の推進 平成15年5月 日本臨床心理士会 虐待問題に関するWGによる全国の臨床心理士のアンケートをもとに、「児童虐待防止法改正への提言」を取りまとめ、衆参両議院、厚生労働省に提出 平成16年4月成立に向けて、臨床家としての意見を反映させた。</p>	<p>45、46、49、55 共通 第5回子育て支援研修会 【日時】平成16年11月28日 【場所】愛知県名古屋市中央大学にて、 【テーマ】全体会は臨床と脳神経に関するテーマの講義 分科会は昨年と同じ4分科会で研修会を実施予定である。 第1分科会：保健医療領域での子育て支援 第2分科会：福祉施設での被虐待児への支援 第3分科会：地域での親支援 第4分科会：幼稚園・保育園での子育て支援 【参加者】700人（臨床心理士）</p>